

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害の理解Ⅱ Understanding Disabilities Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
吉田 志保	福祉棟3階	授業中にお知らせします		授業中に指示します
授業の概要				
障害福祉に関する法体系と社会資源を理解する。また、障害のある人と家族の心理を理解し、各種専門職の連携と協働から、具体的な支援について学ぶ。				
授業の目標				
①障害福祉に関わる各法の概要を説明できるようにする。 ②社会資源を列挙できるようにする。 ③障害による心理的側面を把握し、支援体制とつなげることができるようにする。 ④医療・保健・福祉分野の専門職と役割を説明できるようにする。				
授業の方法				
講義科目であるが、個人ワーク・発表会、視聴覚教材等を取り入れる。				
学習の成果（学習成果）				
①障害のある人と家族に対し心身両面に配慮しながら、必要な支援制度とつなげることができる。 ②障害領域の各職種の役割を説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって）、「障害の理解Ⅰ」の復習			
第2回目	障害福祉の法体系① 個人ワーク（障害福祉に関わる法体系を分担し調べる）			
第3回目	障害福祉の法体系② 個人ワーク（障害福祉に関わる法体系を分担し調べる）			
第4回目	障害福祉の法体系③ 個人ワーク（障害福祉に関わる法体系を分担し調べる）			
第5回目	障害福祉の法体系④ 発表、補足説明（レポート1 提出：第6回目）			
第6回目	障害福祉の法体系⑤ まとめ			

第7回目	障害のある人の心理① 「障害の理解 I」のレポートをもとにしたディスカッション	
第8回目	障害のある人の心理② 発表、障害が及ぼす心理的影響	
第9回目	障害のある人の心理③ 障害の受容、まとめ 小テスト①	
第10回目	連携と協働① 地域におけるサポート体制	
第11回目	連携と協働② チームアプローチ、各種専門職の理解	
第12回目	地域生活と社会資源	
第13回目	家族への支援と地域生活	
第14回目	知的障害者の理解 知的障害関係者の講話または視聴覚教材（レポート2 提出：第15回目）	
第15回目	まとめ 小テスト②	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	20%	テキストや指示された資料等を持参し、自主的にメモしている。個人ワークやディスカッションに積極的に取り組んでいる。
レポート	20%	1：障害福祉に係る法律を調べる。S：法の概要を他者にもわかるようにまとめている。 2：講話または視聴後のレポート。S：感想文にとどまらず、学びを明確に記述している。（各10%）
調査報告書		
小テスト	50%	2回実施 ①②ともに、介護福祉士国家試験に準じた選択式である。（各25%）
試験		
発表内容（態度含む）	10%	発表の練習をしている。
その他		
教科書と参考図書		
教科書：新・介護福祉士養成講座 「障害の理解」 中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと。遅刻厳禁。飲み物等持ち込み禁止。		